

令和4年度 宮崎地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のために地域活動や地域ケアプラザの活動が制限されてきました。その中で宮崎まつりウィークの開催など出来る活動は継続してきました。令和4年度は、新型コロナウイルスの感染状況をみながら、必要な活動を再開していきます。また、ケアプラザの相談員が自主事業や地域活動の場へ積極的に参加することで、困りごとを気軽に相談できるようにし、身近な相談窓口を目指します。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ワンストップ相談窓口を目指して、高齢者のみならず、障がい児・者や子どもの相談を受け付ける機関であることを広報みやざきや回覧版を通じて周知していきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	専門職や包括から得た「地域の情報(基礎情報・社会資源)」と「課題(個別・地域)」を視覚化し、整理した資料を地域ケア会議で活用していきます。会議開催後は地域での勉強会や協議体にも活用し充実、発展させていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	今後も継続して、認知症サポーター養成講座や個別レベル地域ケア会議を開催していく中で、意見交換会やグループワークの時間を設けながら地域と専門職間のネットワーク構築を推進していきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	自主事業では、学習サロン、音楽サロン等既存の事業は継続しながら「プラザに参加する」ということを安心に思えるように安全な設営を心掛けていきます。ボランティア育成では、シニアボランティアポイント研修を開催し、ボランティアの参加を呼びかけます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	移動困難地域の高齢者のために、日本財団からの寄付車輛を活用して、買い物や外出を楽しめるような機会を作り支援していきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

地域の活動が再開してきたため、地区社協や民児協、シニアクラブ等の活動の場で参加しケアプラザの周知をしながら身近な施設と思ってもらえるよう活動してきました。ケアプラザの活動としてはCPLレベルの地域ケア会議を開催し、個別ケースから地域課題を民生委員とケアマネを交えて検討し、今後の地域連携の足がかりにつなげることができました。また10月にはみやざきまつりを開催し、地域活動を掲示やバザーの支援など地域を盛り上げる活動の支援を実施しました。今年度はさらに日本財団の福祉車両を使用し、遠方の来館者の送迎を実施し、さらにプラザを身近に感じてもらうよう取り組んできました。今後は活動を広げていきたいと考えています。地域の課題にも積極的に取り組み、赤門町・東ヶ丘エリアでの地域住民との勉強会を再開し、担い手の確保、居場所作りの支援を継続しています。

区からのコメント

コロナ禍で様々な制約がある中、地域ケアプラザ運営にご尽力いただき、ありがとうございます。地域の身近な場として子育て世代も含めた多世代の方が参加しやすいよう、日々きめ細やかに事業の実施、貸室業務等に取り組んでいただきました。特に10月の「みやざきまつり」では、地域との連携を意識するとともに、地域を盛り上げる工夫を凝らし、精力的に開催されたことは今後の活動に向けた大きな励みとなりました。加えて、福祉車両を活用した送迎については、今後、移動が困難な高齢者等が参加につながる取組として、ニーズ把握や取組の推進に期待します。また、困った方が早期に相談・支援につながるよう、相談機能の周知の工夫、継続した相談支援を期待するとともに、引き続き、日ごろからの地域支援者との顔の見える関係づくり、情報共有を推進していくことを期待します。